

基本構想(素案)に対する【意見】まとめ

通し番号	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方
1	西田 久美	5	1. (1)本市を取り巻く社会状況の変化	L4「これらの変化が～」の前などに、「令和2年、突如として突き付けられた感染症との共存という視点(要素)も含め、」等、ウイズコロナについての文言を追加。	社会情勢の変化として、「感染症によるリスク」を以下のとおり追記を検討 L4「～本市を取り巻く社会経済状況は大きく変化しています。特に、令和2(2020)年は、新型コロナウイルス感染症が世界的な流行となり、グローバル化がもたらす感染症に対応するための「新しい生活様式」の確立も急がれています。」
2	久保田 健一郎	5	(1)②ビジネスや生活におけるグローバル化のさらなる進展	半年前でしたらこの内容で十分だったと思いますが、現状では今後のグローバル化の先行きが不透明になっていますので、その点は反映させなくてもよろしいでしょうか。	令和2年の外国人観光客減少について記載するとともに、将来は回復すると考えられるという旨の追記を検討 L7「近年、訪日外国人観光客(インバウンド)が年々増加する傾向にあり、平成30(2018)年には、初めて3,000万人台を超えました。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2(2020)年の訪日外国人観光客は大きく落ち込みましたが、治療薬等の開発・普及や、国際的な「新しい生活様式」の確立に伴い、インバウンド自体の趨勢は、中長期的にはやがて回復すると見込まれます。」
3	西田 久美	6	(1)③様々なリスクから身を守る「自助」の重要性の高まり	L6～7「～回復力を高めていくことが必要となっています」の後などに「さらに複合災害に対応する避難計画の策定も急がれます。」等「複合災害」について触れる。	以下の通り、感染症リスクを追記するとともに、複合災害への対応が求められていることについて追記を検討 L7「加えて、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を踏まえ、感染症と自然災害に同時に対応する必要性への認識とそのための備えが求められています。」 L10「このように様々なリスクに対する認識を共有し、あらゆるリスクを想定したエビデンス(科学的根拠)に基づく予防・減災に取り組むため、「公助」「共助」と共に、「自助」の重要性も一層高まっています。」
4	藤原 由美	6	(1)③様々なリスクから身を守る「自助」の重要性の高まり	新型コロナウイルスの収束が見通せない中、未知の感染症への対応についても加筆したほうがよいのではないかと。	
5	西田 久美	6	(1)④デジタルコミュニケーション手段の高度化への対応	「ウイズコロナにおいてはますます重要な役割を果たす」という意味の文言を追加。	以下を追記を検討 L4「また、これらを基盤として、個人同士でのモノやサービスのやり取りも一般的に行われているほか、フリーランスやテレワークなど様々な働き方が広がっています。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の教訓を踏まえ、ビジネスや教育、行政サービス等、様々な場においてリモートによるデジタルコミュニケーション手段を活用すべきとの認識が広がりました。今後も、デジタルコミュニケーション手段の発達に伴い、技術・サービスの開発が進み、人々の暮らしやビジネスが変化していくことが想定されます。」
6	久保田 健一郎	6	(1)④デジタルコミュニケーション手段の高度化への対応	デジタルコミュニケーションに関しても、同様に半年前とは大きく状況が異なっていると思います。記載されている内容の次のフェーズに入ってきたように思いますが、その点の反映はいかがでしょうか。	

基本構想(素案)に対する【意見】まとめ

通し番号	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方
7	服部 浩之	6	(1)④デジタルコミュニケーション手段の高度化への対応	・環境変化に適応しにくい方を考慮とあるが、昨今、フェイクニュースの話題が国際的な議論になっているように、インターネット上などでの問題は、それを使わない/使う必要がない層ではなく、「積極的に使うにも関わらずメディアリテラシーが低い層が、嘘の情報発信に騙される」「あるいは何らかの意図をもって虚構の情報発信をする」という、情報処理能力の低さや情報倫理の低さこそが問題ではないのか。この視点が抜け落ちている。	以下のとおり追加を検討 最終行「こういった環境変化に適応しにくい方を考慮した対応と併せ、誤った情報に左右されない主体的な情報媒体活用能力を高める情報教育や情報モラルの確立も必要となつていきます。」
8	服部 浩之	8	(3)本市の特性 ・交通利便性	・大阪都心部へのアクセスの良さのみが強調されているが、京都へ一本で行けることや北摂と言ったベッドタウンへのアクセスの良さも併記するべきだ。幅広い視野が必要。大阪市のみにプライオリティの在りどころを固定すべきではない。	以下のとおり変更を検討 L5「～様々な都市機能を利用しやすい環境にあり、さらに、京都や北大阪地域へのモビリティの高さも有しています。また、大阪モノレールの東大阪市までの南伸が計画されており、大阪都市圏における南北軸の交通利便性向上が一層期待されます。」
9	服部 浩之	11	(4)本市の主要課題 ①子育て世帯等の定住促進	・生まれ育ったことを誇りに持つ若者とあるが、主語が間違っている。そうではなく、「守口市が」、そこで育った若者が誇りに思える・自慢できる都市像にこそ成長していくべきではないのか。また、そのために、都市としての価値をどのように上げていくのか。	最終行を以下のとおりを修正し、1段落目の後ろに移動 L9「～守口市を選択する割合を増やしていくことが必要です。また、定住促進に向けては、若者が本市に愛着を持ち、生まれ育ったことを誇りに思えるよう、まちづくりを進めることも必要です。そのためには、子どもが「守口で育ちたい」、保護者が「守口で子育てをし続けたい」と思えるように、住環境や、子育て、教育等を総合的に高めていくことが大事な課題です。」
10	松川 杏寧	11～12	(4)③防災・防犯対策のさらなる充実	ハード面の整備と、住民主体で取り組むソフト面の取り組みへの補助の両方が大切。 防災特化、防犯特化ではなく、誰にとっても安全なセーフシティ、バリアフリーかつ事故が少なくなるようなデザインに変えていく。 そのデザインは、まちの安全の基盤となる地域住民の活動を阻害しないデザインにする。 地域住民主体の様々な安全対策活動を支援する。 その際、SDGsを掲げるのであれば、当事者参画(障害者、高齢者、子ども、子どもを持つ親、外国人等)を積極的に進める。	以下のとおり変更を検討 ・P12L6「高齢化のさらなる進展に備え、防災・防犯の両面から安全安心への備えをさらに高めるため、市としてハード面の整備とともに、ソフト面からは市民の主体的活動への支援を行うことなどが課題です。これにより、市民と行政機関がそれぞれの具体的な役割を理解して確実に果たし、ユニバーサルな視点を備えた自助、共助、公助の協働による安全安心社会に向かう姿勢及び体制の確立が重要です。」
11	服部 浩之	12	(4)④市民の守口への愛着・都市イメージの向上	・ここが一番大事な部分の一つなので、もっと発展させて良いと思う。どの年齢層・どのような所得層・どのような職種・属性の人間にアピールしたいのか。活動や人とのつながりというが、それ自体は大事だが、うまくやらないと、ただ煩わしい空気になったり、一部の人たちが自己満足で群れている街になりかねない(そうすると、多くの人はむしろ離れていく)。これらを高度に広い層にアピールするためにどうするのか、もっと踏み込んで考える必要がある。(でない、この構想が下位に降りて個々の企画立案になるときに、方向性がぶれてしまう)	以下のとおり変更を検討 ・L4「～約3割にとどまっています。年齢階層別にみれば、20歳・30歳代の「誇りに感じる」割合が相対的に低く、この階層をターゲットにした戦略的なまちづくりの必要性も感じられます。 また、あらゆる人々にとって、生活の利便性に加えて、守口の～」 ※なお、具体的なイメージは、P15の「市民が誇れる魅力あるまち(実現を目指す守口の姿)」で記載をしています。 ※また、「多様な人が過ごしやすいまち」のイメージについては、P11「②人生100年時代を見据えた多様な人が過ごしやすいまちづくり」でも課題として記載しています。
12	松川 杏寧	12	(4)④市民の守口への愛着・都市イメージの向上	多様な人々を受け入れる包容力を持った守口市としてイメージアップ。誰も排除しない、されない、させない市になれば、新規流入者も定住したくなる。	

基本構想(素案)に対する【意見】まとめ

通し番号	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方
13	西田 久美	12	(4)⑤公共施設や都市基盤との再編統合と計画的な更新	・「縮充」という文言を使用してはどうか。	施設の規模を縮小しながら、内容を充実していくというイメージについては、同様の考え方をしてはいますが、「縮充」という文言は計画に記載するには、まだ一般的ではないので、その概念を織り込んだ表現を以下のとおり加筆。 ・L8「～必要となる再編統合を進めていくとともに、一方で、単にスクラップのみを目的とするのではなく、新たな市民、都市ニーズに応じた機能を付加する観点も含め、将来にわたって維持していく公共施設や都市基盤の管理及び機能更新を計画的に進めていくことが必要です。」
14	西田 久美	13	将来都市像	「(仮)いつまでも住み続けたいまち守口」は率直なメッセージが伝わって良いが、都市像としては、具体的イメージがあっても良いかと思う。例えば、「教育」「防災」「健康」など特に何に力を入れて、いつまでも住み続けたいまちを目指すのかという視点でも良いかと思う。検討の余地はあると思う。	「いつまでも住み続けたいまち」という「定住」の考え方を素直に文章化したものが「(仮)いつまでも住み続けたいまち守口」です。 西田委員のご提案は、そのための手法論も強調してはとの趣旨と理解いたしますので、特に、一分野に限って力を入れていくイメージをこの将来都市像に付加するのがいいのか、各委員でご議論を深めていただければと考えます。 服部委員のご提案は、キャッチコピー的観点からのものですので、まず今回の総合基本計画における「将来都市像」のイメージ(定義)を固めた上で、市民等に愛着や理解を深めていただく観点で、審議会においても有効とのご意見が多数であれば、ワンフレーズのキャッチコピーについても、その命名手法を含めて検討いたします。各委員のご意見・ご議論をお願いいたします。
15	服部 浩之	13	将来都市像	・いつまでも住み続けたいまち守口。これはキャッチフレーズとして成り立つのか(キャッチーではない)。そもそもこれは、気の利いたキャッチフレーズを求めているのか何なのか。キャッチフレーズを求めているなら、言葉の素人の集団に答申を求めず、プロの広告コピーライターに書かせたらどうか。 一応、素人の私なりに数点考えておく。(本来はプロが考えるべきだ) ・明日も明後日も、この街で ・もっとグッドライフ 守口 ・暮らすのも、働くのも この街で ・生活満足度No.1 ・案外いいかも もりぐち ・ぼくのまち、きみのまち もりぐち ・人も街も、輝いている ・都心の真横 ほがらかな街 ・やるじゃん 守口 ・世界で一番、コンビニエンス ・都会なのに、ほっとする	(参考) ・守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略 「安心・快適・便利に子育てできるまち守口」 ・守口市地域福祉計画 「地域に住む人々と、共に生き、共に支え合い、住んでよかったと思える地域の実現に向けて」 ・守口市障がい者計画 「障害のある人もない人も、互いを尊重し、支え合いともに暮らすまち守口」 ・もりぐち高齢者プラン 「地域で支えあいながら、健康でいきいきと安心して暮らせる まちづくり」 ・守口市市民協働指針 「「ようこそ」の守口へ住みたいまち守口へ」 ・守口市花と緑の基本計画 「緑あふれ、花かおる、ゆとりとうるおいのあるまち守口」

基本構想(素案)に対する【意見】まとめ

通し番号	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方
16	西田 久美	14	(3)安全に安心して暮らせるまち(実現を目指す守口の姿)	2番目の・の欄に「複合災害にも対応し」などの文言を追加。	以下のとおり変更及び追加を検討 ・「犯罪、災害、事故、病気疾病、失業、家族構成の変化等、人生には自己や社会が抱える様々なリスクがあります。また、加齢等により、福祉・介護サービスが必要となることもあります。~~~~、セーフティネットとしての行政による支援(公助)が適切に機能している「誰もが安全に安心して暮らせるまち」を目指します。」
17	藤原 由美	14	(3)安全に安心して暮らせるまち(実現を目指す守口の姿)	新型コロナウイルス感染症等、未知の感染症への対応についても加筆した方がいいのではないかと。	(実現を目指す守口の姿) 1「・住民自らが強い防犯意識を持って、行政、警察とともに犯罪に巻き込まれる心配が少ない犯罪が起きにくいまちづくりに率先して取り組んでいる。」 2「・行政、~~、安全性が高く安心できる都市基盤が整っている。 ・安心して市民生活を送ることのできる「新しい生活様式」の確立と感染症の拡大防止体制が整っている。」
18	松川 杏寧	14	(3)安全に安心して暮らせるまち(実現を目指す守口の姿)	(3)の「住民自らが強い防犯意識を持って、行政、警察とともに犯罪に巻き込まれる心配が少ないまちづくりに率先して取り組んでいる。」とあるが、住民は巻き込まれるだけの弱い存在ではなく、住民活動を活発にすることで犯罪認知件数が減少することは科学的に明らかにされているので、「犯罪を予防する」や「犯罪が起きにくい地域にする」などの文言の方が望ましい。	
11 再掲	服部 浩之	15	(4)市民が誇れる魅力あるまち	・ここが一番大事な部分の一つなので、もっと発展させて良いと思う。どの年齢層・どのような所得層・どのような職種・属性の人間にアピールしたいのか。活動や人とのつながりというが、それ自体は大事だが、うまくやらないと、ただ煩わしい空気になったり、一部の人たちが自己満足で群れている街になりかねない(そうすると、多くの人たちはむしろ離れていく)。これらを高度に広い層にアピールするためにどうするのか、もっと踏み込んで考える必要がある。(でない、この構想が下位に降りて個々の企画立案になるときにも、方向性がぶれてしまう)	以下の通り変更を検討 ・「大都市に近いという利便性に加えて、地元で心豊かな「守ロライフ」をおくることができる環境を整えていくことが必要です。まちのあちこちに、ワークライフバランスの下で時間をゆったりと過ごせる居心地のよい場所があり、まち地域をぶらぶらと巡り、あるいはアクティブに活動に参加することで、~~」 (実現を目指す守口の姿) 3「・様々なイベント等があり、自らも関わることもでき、楽しい時間を過ごせる。それを求めて市外からも人が訪れている。」
12 再掲	松川 杏寧	15	(4)市民が誇れる魅力あるまち	多様な人々を受け入れる包容力を持った守口市としてイメージアップ。誰も排除しない、されない、させない市になれば、新規流入者も定住しやすくなる。	
19	松川 杏寧	14~15	-	(3)と(5)の両方に、福祉が大きいかかわってくる(基本構想レベルでは具体的に明文化する必要はないかもしれないが、それをにおわせるような文言は入れておいた方がよい。)例)当事者参画、我がこと意識、包摂、排除しないなどの文言を入れる。	以下の通り変更を検討 (5)持続可能な都市づくりを進めるまち(実現を目指す守口の姿) 3「・市民と行政が、市と市民の将来を見据えて協働し、それぞれの役割と責任のもと、「我が事」意識を持って地域の公共的な課題の解決に取り組んでいる。」

基本構想(素案)に対する【意見】まとめ

通し番号	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方
20	松川 杏寧	-	-	<p>総合基本計画の策定は、市の方向性を決めるだけでなく、市民を教育する重要な機会だと思うので、より守口市の今がわかるデータをもっと示したほうが良い。 例)障害者の割合、外国人割合、罪種別犯罪データ(街頭犯罪だけでも)、これらの経年変化や、近隣市町村との比較があると良い</p>	<p>・基本計画の余白等を活用し、市民の皆さんに知っていただきたいデータを表示した計画の体裁にしていきたいと考えています。</p> <p>なお、当審議会で提示しましたデータ集については、ホームページにおいても公開しています。</p>
21	松川 杏寧	15	-	<p>市民が読んだとき、ここは関係あるけど他はあまり関係ないな、と思わない様にする仕掛けが必要だと思う。様々な課題は根本のところ複雑につながっており、それらを解決するためには、守口市の様々な官民間わなを結集する必要があるが、それを認識できてる市民は少ない。 例)(1)子育て支援では、公助や保育系専門機関による支援が大半になっており、企業に対しては啓発するの1文だけになっているが、共稼ぎ世帯が大半の現在において、企業に対しての積極的な取り組みがもっとなされるべきだし、基本計画内でその重要性をもっと前面に出さないとバランスが悪い。また、(23)地域産業の部分にも同じ内容を含む文言を書き入れて同一の達成目標を掲げられれば、両方の施策に対して効果的な取り組みが可能になる(かかる人でと予算の効率化にもつながる)</p> <p>上記のような仕掛けを様々な施策で入れ込めば、基本構想で謳っているような「多様な協働や連携」ができる体制が、行政内部でも民間側でも官民の間でも、初めて出来上がると思う。</p>	<p>・今回の総合基本計画における基本構想では、基本計画の施策それぞれに記載するのではなく、基本構想において「まちづくりの目標」としてまとめて記載しており、これらを共通の目標として個別の基本計画に取り組むという構成を一つの仕掛けとしています。</p> <p>なお、ご意見のとおり、様々な施策における多様な主体との連携・協働は、基本となる重要なものと考えており、上記の考え方から、基本構想における目標として「持続可能な都市づくりを進めるまち」の中で掲げているところです。</p>
				<p>あと、やはり具体的な数値目標はあったほうが良い。</p>	<p>・今回の基本計画では、27の施策に79の「5年後の守口像」と、それに対応する「評価指標」を設けていますが、「評価指標」は、目標とも言える「5年後の守口像」の実現状況を測るためのモノサシの一つであると考えています。</p> <p>前期基本計画においては、この評価指標について、目指す方向性を示し、個別の定量数値目標にとらわれることなく、取組の着実な推進によりその達成度を確認できるようなスタイルを考えています。</p> <p>個別の定量的数値目標の設定については、何を数値目標にするか、そのエビデンス、妥当性に統一理解を図りにくい指標もあると考え、それらは今回の総合基本計画で設定するのではなく、むしろ当該計画を上位計画として個別法等に基づいて策定する各分野の(事業)計画(例えば「子ども子育て支援事業計画」「障がい者計画及び障がい福祉計画」など)に委ねた方がより合理的なPDCAサイクルを織り込んだ計画策定になるのではと考えました。</p> <p>次回以降の基本計画の審議において、各委員でご議論を深めていただきたいと考えています。</p>

基本構想(素案)に対する【意見】まとめ

通し番号	意見提出者	ページ	該当箇所	意見内容	事務局の考え方
①	パブリックコメント	5	1. 基本構想の策定背景 (1)①人口減少・少子高齢化のさらなる進行	「人口減少と税収減少を見据えて、社会インフラを適切な規模へ段階的に縮小」とありますが、市民生活をどう充実させていく為に、どうあんなければという視点が抜けているのではないのでしょうか？	人口減少や税収減少への対応は、本市の未来においても避けがたい課題です。 今後、そうした社会状況の変化に適切に対応し、市民生活の水準を維持・向上させつつ、持続可能な都市づくりを進めていくことが重要と認識しています。
②	パブリックコメント	5,6	1. 基本構想の策定背景 (1)③様々なリスクから身を守る「自助」の重要性の高まり	気候変動は、自然発生的に発生したものではないと思います。その対策が、国及び世界的レベルで求められるのではないのでしょうか？ また、災害時の初動対応としては、従来より自らどう行動するか考える必要があると思いますが、それを手助けする行政の役割も重要だと思います。	気候変動に係る対策は、ご意見のとおりと認識しています。 また、災害発生時の対応は、初動対応を含め、市民と行政機関が自助・共助・公助の考え方に基づいて、それぞれの役割を理解し、確実に果たしていくことが重要と考えています。
③	パブリックコメント	8,9	1. 基本構想の策定背景 (3)本市の特性	交通利便性が高いという評価は理解できますが、その反面、幹線により市域が分断されているという認識も必要ではないのでしょうか？	大阪中央環状線等の主要幹線道路は、その機能として広域的な移動を円滑にすることができ、東西方向、南北方向の市域内のいずれにもそのような道路があることをもって「交通利便性が高くなっています。」と評価しているものです。 一方で、そのような道路は比較的に交通量が多く、道路幅員も広いことから、横断の困難さのみならず、コミュニティ活動等に影響があるということも踏まえ、計画を策定してまいります。
④	パブリックコメント	12	1. 基本構想の策定背景 (4)本市の主要課題 ④市民の守口への愛着・都市イメージの向上	イメージ戦略で誇りを持てるのでしょうか？地域のランドマークとなる都市の顔づくりが課題とありますが、住んでいる人にとってどうなのかという観点が必要と考えますし、一点豪華主義になるという側面もあるのではないのでしょうか？	市民アンケートの結果では、本市に愛着を感じている市民は約6割いらっしゃる一方、市民であることに誇りを感じる割合は約3割となっています。よって、より多くの市民に、本市を誇りに感じていただけるよう、本市の魅力づくりや発信により都市イメージを向上させていくことが必要と考えています。
⑤	パブリックコメント	13	2. 将来都市像	将来都市像の「いつまでも住み続けたいまち守口」は、今の時代にピッタリだと思いますので、仮称ではなく、このフレーズで決定すればと思います。	将来都市像を含め、総合基本計画の記載内容については、今後、審議会での議論を踏まえ、検討していきたいと考えています。
⑥	パブリックコメント	—	基本計画 SDGsについて	最近、テレビなどで「SDGs」という言葉をよく耳にします。今回の計画ではSDGsを取り入れるようですが、なぜ、守口市がSDGsに取り組むのか、もう少し詳しく記載した方が良いと思います。	SDGsは平成27年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」です。現在では、全世界共通の国際目標と位置づけられており、我が国でも市町村レベルからSDGsにつながる施策への取組みが推奨されているところです。 本市としても、今後の施策展開にあたっては、NPOや市内各団体、事業者等と協働しつつ、より広い取組みを進めることが重要であり、こうした取組みにより、将来都市像を実現していくことを通じて、SDGsの達成にも繋げることができるとの考えから、総合基本計画においてSDGsの考え方を取り入れることとしたものです。 ご指摘の記載内容については、今後、審議会での議論を踏まえ、検討していきたいと考えています。